めい想の小径を感じて歩く。

距離：約 2300 m

所要時間：約60 分

植物お楽しみレベル

歴史お楽しみレベル

ハイキングレベル

(登り始めは緩やかですが、中腹付近から急斜面が続くため足元に注意が必要)

楽しめる眺望：

北方向の景色

登山道入り口：

ロープウェイ北側より

金華山の北側の斜面を緩やかに登る登山道です。登山道を登り始めると、ツブラジイやアラカシの常緑広葉樹の森が広っていますが、中腹にさしかかると金華山一大きいスギやそのスギと同じくらいの樹齢（推定）のヒノキの巨木を見ることができます。
また昔は、この登山道が城主の脱出用の道として使われるなど歴史的な側面もあり、自然と歴史の両方を楽しむことができます。

COURSE GUIDE

旧長良橋が・・・～三重塔～ ①

秋になると赤く染まるもみじの中にたたずむ紅い三重塔は、金華山の秋の名物となっています。実はこの三重塔、明治24年の濃尾大震災で倒壊した長良橋の廃材で作られています。

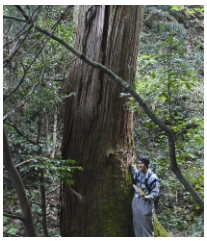
旧伊奈波神社跡 ②

伊奈波神社は、元々金華山の山中にありました。伊奈波神社の歴史は古く、今から1900年以上前に金華山に祀ったのが始まりと言われています。その後、斉藤道三が岐阜城を大改築するまでこの地に祀られていました。

ツブラジイの森 ③

岐阜市の木となっているツブラジイは、5月ごろに独特の香りのする薄い黄色の花をつけます。その香りは、岐阜公園にいてもわかるほど強いものです。また、花のつくころには、山全体が黄金に輝いているように見えます。

金華山で1番の大杉 ④



ツブラジイの森を抜けるとそこには、金華山で一番大きなスギやヒノキの巨木を見ることができます。大きなものになると幹の直径が130cm以上のものもあり、もしかすると信長の時代から金華山にたっているのかもしれません！？

古川・古々川と長良川 ⑤

昭和17年9月に古川、古々川が締め切られ、現在の長良川となりました。その前までは、長良川は金華山にぶつかり長良橋下流で流れが3つ（井川古川、古々川）に分かれていました。

松尾芭蕉とヒトツバ ⑥

金華山では、木の下や岩場に群落をつくっているヒトツバをよく見ます。松尾芭蕉が岐阜を訪れたときにこのヒトツバについての句を詠んでいます。
“夏きても　たゞ一つばの　一葉かな”

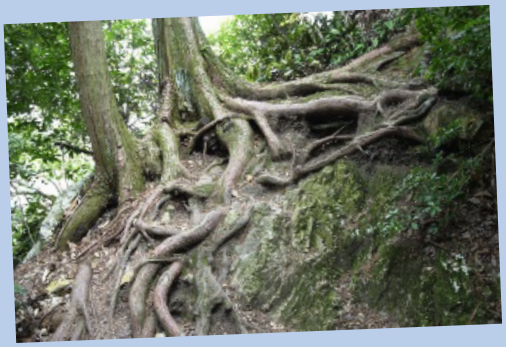
くわしくは裏面へ

めい想の小径の植物の移り変わり

めい想の小径は、金華山の北斜面を緩やかに登る登山道で、ふもと付近に２本の沢が流れています。そのため、他の登山道より湿気が高く、ウラジロやコシダといったシダ類も量も種類も多くみられます。
また、登るにつれ、その森の様子も変わっていきます。まずはじめに見られるのはアラカシ、ツブラジイの常緑広葉樹の森です。金華山の森の約60%はこのような常緑広葉樹で占められていると言われています。常緑広葉樹の中でも「岐阜市の木」となっているツブラジイが最も多く、全樹木の約20%を占めています。めい想の小径では特に大きなツブラジイの木を見ることができます。
さらに登っていくとヒノキの大木や、尾根近くになるとコナラ、アベマキなどの落葉広葉樹林へと移り変わり、秋にはドングリをつけます。
登りながら、木々の移り変わりを気にしてみると、きっと新たな発見があるでしょう。

金華山の木の根っこはなぜ土から出ているの？

めい想の小径を登っていると登山道を崩れるのを守ってくれたり、登るのを助けてくれる木の根に気づくと思います。
金華山は山全体が巨大なチャートのかたまりです。地面が非常に固いため根っこが地中にもぐることができないのです。そのため、金華山では木の根が岩をつかむように成長している姿がよく見られます。金華山の地質と木々たちが見せてくれる自然の不思議な姿です。



ツブラジイの森が広がるまで・・・

現在の金華山は、ツブラジイの森が広がっています。このツブラジイの森が広がる前はコナラなどの落葉広葉樹が生えていましたが、徐々にツブラジイの森に移り変わっていったと言われています。また、現在コナラなどの落葉広葉樹が生えている尾根付近には、以前はアカマツが生えていました。金華山の森は現在もゆっくりと変化しています。

古川・古々川・井川って？

昔、長良川は金華山にぶつかり３つに分かれていました。それが古川・古々川・井川です。現在でもめい想の小径からはその古川・古々川が流れていた痕跡を見つける事ができます。古川は、現在の長良川国際会議場付近から西に流れ、そして古々川は鷺山の南側を流れていたといわれています。昭和初期の治水工事により井川が現在の長良川となりました。また現在、古川・古々川の跡地は国際会議場やメモリアルセンター、学校などの公共施設や住宅地となっています。